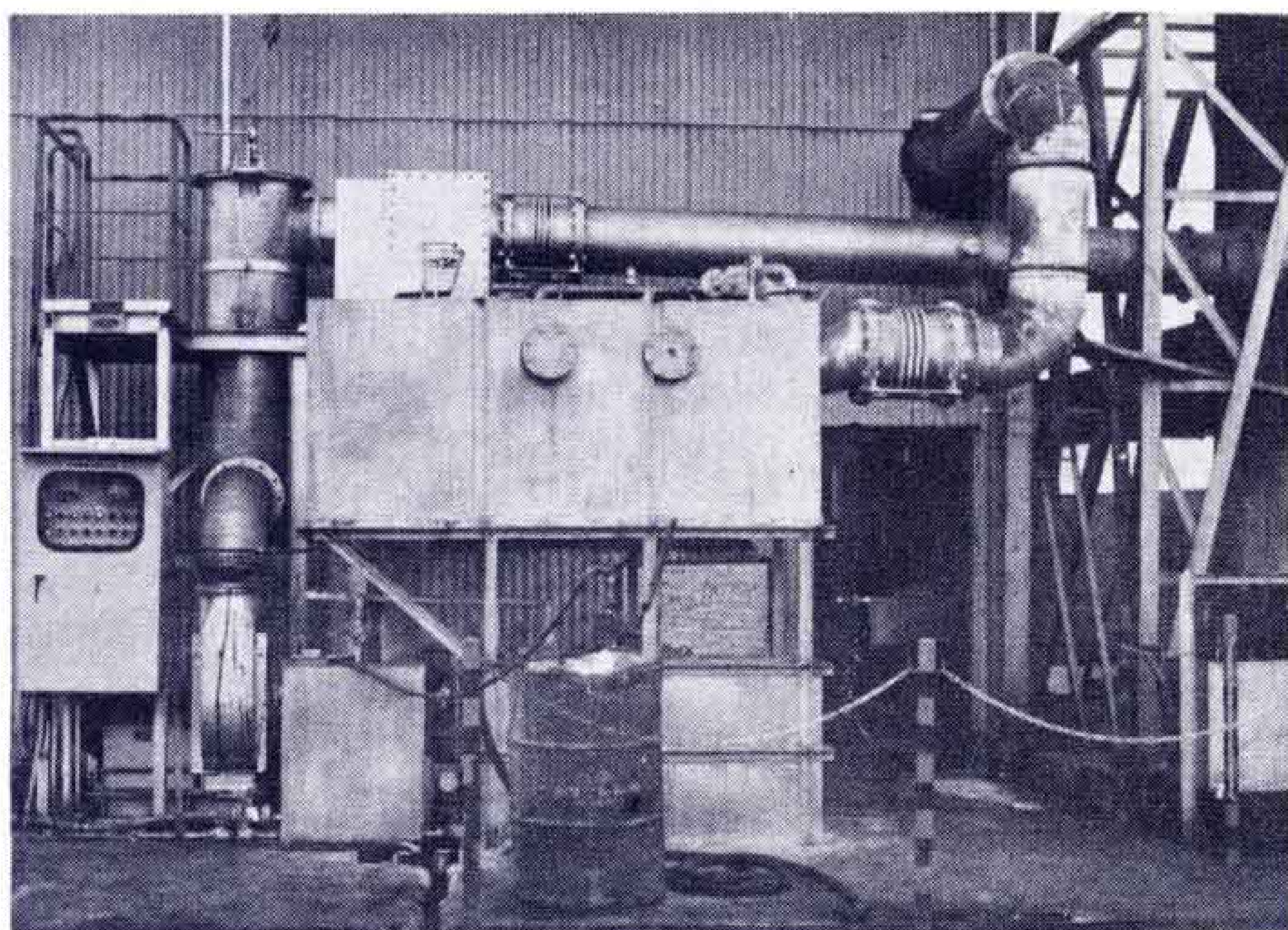


「富士503計画、を達成するために、各企業がどのような削減計画を持っているか、さきごろアンケート調査を行ないました。調査は131事業所を対象に行ないましたが、109事業所から回答がありました。



【排煙脱硫装置の設置希望が増える】

富士503計画を達成するにはどうしたら…

131事業所を対象に アンケート調査

「富士503計画」達成のために、さきごろ市内の131事業所に説明会を開き協力を要請しました。富士503計画は、富士市公害対策審議会から答申された「イオウ化合物に係る基本的な考え方」をもとにつくり、昭和50年までに大気汚染濃度を0.03PPMにするというものです。そこで各企業がどのような濃度削減計画を持っているかアンケート調査を行ないました。この調査結果がまとまりました

のでお知らせいたします。

調査は131事業所を対象に行ないましたが、83廠に当たる109事業所から回答がありました。調査項目は、削減計画、新增設の計画、富士503計画に関する要望事項の3点です。

です。

企業から

50年以降の指導も 合わせて…

なお、要望事項として出されたものは①昭和50年度以降の大気汚染防止対策(SO₂)も合わせて指導してほしい。②低イオウ燃料(低イオウ重油、灯油、ガスなど)確保のため、燃料メーカーにも指導してほしい。③中小企業向け排煙脱硫装置の指導をしてほしい。④協同ボイラーによる蒸気供給計画を進めてほしいなどがありました。

重油の低イオウ化が 約半数を占める

削減計画では、富士503計画(環境目標値達成計画)に示された最大排出量まで削減する方法として、重油の低イオウ化、排煙脱硫装置の設置、使用燃料の転換、のどれを採用していくかです。

方法としては、重油の低イオウ化が多く59工場で54廠、排煙脱硫装置が25工場で23廠、燃料転換が19工場で17廠、その他が6工場6廠となっています。このうち最も多い重油の低イオウ化は、主として中小企業の対策で、C重油のLS化、A重油への切り替え灯油との混焼、ガスとの混焼などが検討されています。排煙脱硫装置の設置は、主としてパルプ製造工場の対策で、アルカリ溶液で吸収する湿式の排煙脱硫装置が検討されています。燃料転換は、灯油やガスへの切り替え

各企業との話合いで 燃料転換の 希望が大幅に増える

なお、この調査結果をもとに、各事業所と削減計画について再度話し合いを進めてきました。この結果、国の規制が厳しくなるのを見越したり、重油の低イオウ化だけで富士503計画を達成するには無理があるので、現在は排煙脱硫装置の設置や燃料の転換を希望する事業所が、アンケート調査を実施したときより、大幅に増えてきました。今後の予定としては、各事業所に削減計画書を提出していただき、6月末までに覚書きを交換し計画の実施に入ります。

削減方法

